

# Executive Summary

## 《メコン川の水資源開発》

メコン川は6カ国を結ぶ大動脈で、国土の多くを流域とし、メコン川流域の開発こそが、これらの国の社会経済開発の中心課題となる。

例えば、ヴェトナムでは、メコン川流域は首都から遠く離れているが、2000年に向けての5カ年計画は、国内の格差是正と高い成長率を維持するという基本方針のもとで、メコンデルタ地域の農業と農産物加工業の開発、またカントーを中心とするメコンデルタ開発を明示している。メコン川流域開発は、同国の5カ年計画で謳うインフラ整備とも密接な関係をもっている。対外的には、ラオス、カンボディアを含む拡大ASEAN構想とリンクした地域開発構想として位置づけられている。そして現実の外国ビジネスの動き、モノの流れはこのような国の政策の想定以上に進展しつつあり、今後ヴェトナム経済に少なからぬ影響を及ぼすものと考えられる。また、上流域国の水資源開発は、メコンデルタに多大の影響を与える。

## 《インフラ整備への地域間協力》

インドシナ3国、ミャンマー、中国雲南省は周辺国に比べて開発が遅れた状況にある。また、周辺では、地域経済圏形成の動きが活発である。こうした流れに乗るべく、市場経済導入をはかるこれらの地域においても、インフラ整備、工業化、商業・貿易、社会サービスに対するニーズは高く、この分野への外国援助・投資プロジェクトが増えている。

一方、ドナー国・機関は、メコン川沿岸6ヶ国の多様な開発プロジェクトを自然条件、歴史、文化の共有性に着目し、国をまたがる広域プロジェクトに期待を寄せている。先ず、1992年に第1回会合をもったADBによる拡大メコン地域（GMS）経済協力の動きがある。目玉は、運輸交通網と電力開発である。

国際的インフラ整備の実現に向けて克服すべき課題として、第3章は、越境制度の改善（自動車の進入、通過手続きなど）、民間資金導入と料金

設定の問題、などをあげている。

### 《開発と環境—モニタリング》

メコン川は国際河川であり、水関連の流域開発には各国の合意が必要である。この意味で、環境変化をもたらすインフラ建設は他の沿岸国にとって重大関心事である。1995年に再スタートしたメコン川委員会は、「持続可能な開発」をメインテーマとしている。灌漑農業、水力発電、漁業、舟運、運輸などの各分野の発展はまた自然環境資源への圧力を高めている。従って、水及び関連資源の持続可能な利用を確かなものにするように、環境に十分な関心が払われなければならない。特に、国際交通網と大規模ダムの建設は、環境への影響が大きい。地域住民の生活への影響も問題になる。建設後のメンテナンス能力の有無も問題である。環境視点と住民への配慮は、今日、インフラプロジェクト計画に当たっての必須の検討事項となっている。

そこで、第1章は、急速な社会経済の変化と環境劣化を科学的に捉えるために、社会、経済、環境面での定点観測が必要なこと、また、こうした調査研究を実施するに当たり、受入れ国側の機関と連携・共同研究することによって共に学ぶことを提案している。

### 《全体計画と利害調整》

国際機関やドナー国が支援する開発計画は、セクター別あるいは個別プロジェクトに限定して提案されることが多い。第3章は、国際道路網整備のプライオリティはそれぞれの地域の開発シナリオとリンクして出されるべきであるとして、全体計画の必要なことを強調している。その場合に、ドナー機関の調整、当事国内外の利害調整が課題となることは言うまでもない。

1997年3月、わが国外務省主催でメコン川流域の開発と環境に関するセミナーが開催され、外務省代表、ADB代表、NGO代表、学識経験者、専門家らによる討論が行われた。こうした試みは、ドナー側の意見調整と一般市民の理解を得るための良い機会となろう。

# メコン川流域図

